

2005年 連合徳島



桜井アサポートチーム

第5期生報告集

第5期連合徳島ボランティア・サポートチームの修了に寄せて

日本労働組合総連合会徳島県連合会

会 長 藤 原 学

第5期『災害救援養成講座』を受けられた皆さんには、この1年間、貴重な休日を返上しての熱心なご参加とご協力に敬意と感謝を申し上げます。

連合徳島は、2001年から労働組合の社会貢献活動の一環として、災害時におけるリーダー育成と防災協力体制の確立を進めるため連合徳島ボランティア・サポートチームを結成し、『災害救援養成講座』を年間を通して実施してきました。

『災害救援養成講座』は、阪神・淡路大震災の教訓を基本に近い将来の大地震や自然災害の備えとして、地域における災害時のリーダー育成と組合員のボランティア意識向上を目的に開催してきました。とりわけ、地域の中で活動する労働組合の役割として、地域住民の一員であることを自覚し積極的にその役割を果たすこと、職種・性別・年齢・経験等の相違を乗り越え、『集中と分散』という災害時の基本的理念に基づき、労働組合としてのネットワークを生かした地域貢献を進めることで地域住民とのふれあいも同時に進めてきました。

災害ボランティア活動は、地域防災計画に位置付けられ、登録制度の創設等を行なう自治体が増加の傾向にありますが、防災対策としては十分に成熟していません。しかし、地域の防災力を高める観点から、①東南海・南海地震等の切迫した大規模災害の危険性が高まる中での災害対応力の強化、②地震災害の人的被害は高齢者等いわゆる災害時要援護者に集中しており、防災と福祉との連携が求められ、社会的なニーズに応えられる複合的な活動の展開が不可欠であります。今後は、地域の総合防災訓練や広域的な防災訓練等を実施し、連携が十分に機能するかどうかよく検証し、災害ボランティアに関する活動環境の整備が求められています。

徳島県は、防災局を知事直轄に格上げすると共に南海地震対策課を新設し、一昨年7月には、『消防学校・防災センター』の開設を通して、県民意識の啓発拠点としての活用を図る事業を進めています。南海地震は、2035年までに発生する確立が50%と予測され、徳島県でも甚大な被害が懸念されています。このため、徳島県では、2006年度の主要な施策として県民の生命、財産保護のため、公共施設の耐震化等を積極的に推進するとしています。

連合徳島は、引き続き、ボランティア・サポートチームにおける人材育成と広域連合としての防災協力体制の確立を進めることにしています。『災害救援養成講座』についても、市民との共同した取り組みとして広く参加者の発掘に努めるとともに講座内容の充実を図ります。

最後になりますが、この取り組みに対して、今後ともご指導とご協力をいただきますようお願いを申し上げますと共に、関係諸団体の皆様に心から感謝を申し上げ、お礼のご挨拶といたします。

第5期講座を修了して思うこと

連合徳島ボランティアサポート

養成講座運営委員会

運営委員長 富岡 佳代子

私は、この研修でつぎの事柄を学びました。

災害は好まないが突然やって来る。そして災害時は、まず自分と家族の命の安全を確保し、次に近隣の救助・助け合いをする。そのためには、情報収集を迅速、的確に把握し対応するには日頃から学習が大切であること。災害のメカニズムを理解し、安全でかつ合理的な救助技術を習得し、メンタルサポートも不可欠であるということ。

1995年1月17日、あれから11年が過ぎました。阪神・淡路大震災の大きな教訓の一つは、6,400余名の犠牲者のほとんどがマイホームで一瞬のうちに尊い命を失ったことです。その83%が建物倒壊による圧死でした。大きな犠牲を無駄にしないため、私たちは何をしなければならないかを考えなければなりません。

姉歯設計等耐震偽装事件で、一部の個人の金のため利潤のみにコンクリート・鉄筋を減らし、耐震など問題外とする事件で揺れていたが、ライブドア・民主党偽メール問題でもあり、徹底的に糾明し二度とこのようなことが起こらないよう国に施策を望みたい。

近い将来発生するであろう地震等の災害に備えて、災害の構造を理解し、救助技術を身につけ、ボランティアコーディネーター力を高め、被災者の手助けができるよう続けていきたい。今年から社会福祉法人徳島県社会福祉協議会が災害ボランティア養成の運びですが、連合徳島での私たちの5年の実績を生かして実践できるボランティア活動を……。

2005ボランティアサポートチーム養成講座参加者

名前	名前	名前	名前
一森たつ子	斎藤 和子	能美 道則	森尾 宜郎
江渕 恭子	佐々 秀昭	福田 博成	山下 健一
川岡 幸次	富岡佳代子	藤本 恭士	山下 美仁
木本 正	東条 恭子	前田 孝子	山藤 正義
工藤 隆司	中川 智史	松下 俊郎	山本 奈々
蔵本セイ子	中野 修次	溝俣 和哉	山本 芳幸
小林 新治	中野 輝行	村浪 彰英	吉田 耕造
小林 清次	中村 光輝	元木 太郎	加村 祐志

大規模自然災害、連合徳島の果たす役割

兵庫県南部地震、鳥取県西部地震など、改めて自然の恐ろしさを痛感させる災害が発生しています。

そしてこの一連の地震は、次の南海地震の前触れに相当する内陸地震であり、20年以内に南海地震が発生する可能性もあるとされています。

そして、この南海地震はM8.4規模を想定する研究者も多く、この場合、県南部では震度5～6の揺れが予想され、その上、10分以内に津波が襲う。とされています。

こうした状況をふまえ、徳島県に大規模災害発生した場合を想定する場合、連合徳島の果たす役割は、何か。

- ※ 構成組織の事業所内の自然災害発生時に備えて取り組むべきマニュアルの提示。

- ※ 自治体への政策制度要求。

- ※ 連合徳島自らがおこなう防災対策とボランティア活動の推進。

などがあげられます。

特に、3点目の連合徳島自らがおこなう防災対策とボランティア活動を推進するために、緊急時における連合徳島災害対策本部を設置し、ボランティア救援隊を組織する必要があります。

災害対策本部は連合会長を対策本部長とし、ボランティアの受け入れや組合員の安否確認、情報の収集・提供、など各地協・構成組織と連携しながら、救援センターとしての役割を持つ必要があります。

ボランティア救援隊は、そのリーダーとなるべき人を養成するため、組合員を中心に広く市民から募集し、ボランティアサポートチームとして日常的に実践的な教育訓練をおこなう必要があります。

連合徳島ボランティアサポートチーム運営要綱

趣旨

連合徳島ボランティアサポートチームは、今後発生が予想される、大規模自然災害に対して連合徳島構成組織、連合徳島各地域協議会、行政と連携し災害救助活動に従事することで、被害の軽減と拡大防止をはかることにあります。

また、国内で発生する大規模災害に際しても、一定の条件が整う場合は、連合徳島の派遣決定により、連合徳島ボランティアサポートチームを派遣します。

上記の災害救援活動を効率的におこなうために、参加者に教育訓練をおこないます。

名称

「連合徳島ボランティアサポートチーム」とします。

登録

参加登録を希望する方は、連合徳島に登録されます。

脱退

次の場合は登録を取り消します。

- ① 本人の希望により取り消すとき
- ② 対象者の条件に合わなくなったとき

派遣

徳島における災害発生時のサポートチームの派遣は、連合徳島災害対策本部の設置と同時に派遣出動体制を確立します。

国内で発生する大規模災害に際しても、一定の条件が整う場合は、連合徳島の派遣決定により、派遣要請がおこなわれます。

活動

サポートチームの活動内容は、教育訓練により会得した対応能力に応じた支援活動とします。

徳島における災害時の活動は、支援ボランティアの受け入れや調整、各種の生活支援活動とします。

国内での災害時の活動は、地方連合会や行政と連携し、支援をおこなうこととします。

教育・訓練

登録メンバーは、知識と技術向上のため、別に定めるカリキュラムに従い教育・訓練をけることとします。

保険

登録メンバーは、「ボランティア保険」に加入することとします。

事務局

連合徳島ボランティアサポートチームの事務局は次の場所に設置します。

〒770-0942

徳島市昭和町3丁目35-1 徳島県労働福祉会館内

日本労働組合総連合会徳島連合会

TEL 088-655-4105 FAX 088-655-4113

E-MAIL

info@tokushima.jtuc-rengo.jp

2005ボランティアサポートチーム養成講座

	開催予定日		講座内容	講師等	場所
1	4月23日	(土)	開講式・オリエンテーリング、行政説明「南海地震対策について」、防災ビデオ	連合徳島会長 藤原 学 県南海地震対策課	とくしま県民活動プラザ 664-8211
2	5月21日	(土)	一般救命講習	徳島市東消防署	徳島市東消防署 656-1195
3	6月11日	(土)	実践体験講習Ⅰ(災害について) 救急法・担架搬送・ロープワーク	徳島市東消防署	徳島市東消防署 656-1195
4	7月30日 ～31日	(土) (日)	野外活動 間伐体験・森林教室等 「連合の森」サポート	連合の森	美馬市木屋平 中尾山「平成荘」
5	8月27日	(土)	実践体験講習Ⅱ	徳島県防災センター	徳島県防災センター 北島町
6	10月1日	(土)	「吉野川流域講座・危機管理」について	国交省徳島河川 国道事務所	河川砂防ステーション 三郎広場 石井町
7	10月22日	(土)	実践体験講習Ⅲ(災害図上訓練)	徳島市東消防署	徳島市東消防署 656-1195
8	12月3日	(土)	講演「災害とボランティア活動」 グループ討論・終了式	連合徳島会長 藤原 学 四国大学短期大学 日開野 助教授	とくしま県民活動プラザ 664-8211

2005ボランティアサポートチーム養成講座報告

4月23日(土)

開講式・第1講座には、18人が参加。
連合徳島・藤原会長から養成講座の意義と
激励を受けた後、県南海地震対策課・野上
主幹から「南海地震対策について」講演を
受けた。質疑の後、「20世紀日本の地震災
害」「あの時何が起こったのか」のビデオを
上映、地震災害の恐ろしさと地域における
自主防災組織の重要性と日頃の訓練の大切
さを再認識した。



5月21日(土)

第2回講座は一般救命講習として徳島市東消防署
で開催し、19人が参加。救命についての説明後、三
角巾を使っの止血方法や人工呼吸・蘇生訓練をした。



東消防署員から説明を
受ける →



↑
人工呼吸・蘇生訓練に真剣に
取り組む



← 三角巾を使っの止血↓



←タリバン? 異様な記念撮影



6月11日(土)

実践体験講習Ⅰ(災害について)第3講座

徳島市東消防署救助隊員の指導のもと18人が参加。日常生活でも利用でき、役立つロープワークを訓練。ロープに惑わされるも、多くの隊員の親切な指導で何とか体得。毛布を使った担架搬送訓練や、川などで溺れている人への救助法などを学習した。



もやい結び・巻き結びに挑戦

(昨年ならったのに、もう忘れとるなァ・・・)



ロープ投

げ訓練 ↓



←「どやァ ワシのホームは！室伏みたいやろ」



←「いないイナイバーではないで〜す」

ロープ投げ訓練です。子供が小さいもので、つついこのポーズが・・・



毛布や竹を使っの救助法や搬送方法について
説明・訓練を受ける



第2回
講座を



受講できなかった人に、人工呼吸・蘇生訓練も実施

←

7月30日(土)～31日(日)

第4講座「連合の森」サポート

地球環境にやさしい労働運動をめざした「連合の森」親子サマーキャンプが、7月30日(土)～31日(日)、美馬市小屋平の中尾山・平成荘で開催し、昨年の倍の75人が参加した。これまで実施してきた木沢村「ファガスの森」は昨年の台風による土砂災害等により、未だに通行が出来ない状況の中、徳島森林管理署、森林労連や地元小屋平総合支所の協力により今回開催することができた。



12時30分から平成荘研修室で開会行事を行い、連合徳島・藤原会長、森林管理署・荒畑署長、阿部・小屋平総合支所長からあいさつを受けた。

12時45分から昼のイベント①として「親子森林教室」をボランティア養成講座参加者である県農林事務所の木本・松下係長からスライドやビデオ（森はともだち）を使って、森林のはたす重要性や木沢村の土砂災害の状況や復興に向けての取り組み状況が子どもたちにもわかりやすく詳しく説明された。



続いて、昼のイベント②として「間伐体験・山での救急処置」、「木工教室」の2班に分かれて実施された。



川上国有林・139林班で行われた「間伐体験・救急処置」は、ほとんどの参加者が初めての体験の中、森林労連の指導のもと杉にノコギリを入れ、「バキィバキィ」と音を立てながら目標通りに倒れると大きな歓声が沸いた。また、山の中でケガをした場合の救急処置として、木を切り作業服等で担架をつくり救助する方法を学んだ。



一方の「木工教室」では、森林管理署員の指導・

手助けを受けながらプランター作りが行われ、親子で木を切ったり、釘を打ったり、どんぐりや木の枝をボンドで貼り付け、大人も子どもも熱中し、それぞれ個性豊かなプランターを完成させた。



夕方のバーベキューは昼間に心地よい汗をかいたおかげで、子どもたちの食欲も旺盛で肉・野菜・おにぎりを食べ、大人達もビールを飲みながら交流を深めた。

翌日は、朝食後それぞれに散策をしたり、グラススキーやソリを楽しんだ。心配していた雨も降らず、標高1,050 ㍎の素晴らしい気候のもと事故もなく、サマーキャンプを終了することができた。



8月27日（土）実践体験講習Ⅱ

第5講座は、北島町の県立防災センターで開催し、11人が参加した。指導員の案内で、防災ガイダンス、地震体験、消化体験、煙体験、風体験、救命体験を行った。



阪神・淡路大地震の揺れを体験
風速 30 メートルに顔もゆがむ
目標にむけてすばやく消化



人形を使って正しい位置を押せているかをチェックしあう

おっと！何か想像したのかな？

10月1日（土）

第6講座は、石井町にある河川防災ステーションで開催し、14人が参加した。国交省徳島河川国道事務所の副所長から「流域講座・危機管理」についてプロジェクターを使って、①全国における近年災害事例とその特徴、②吉野川における近年災害事例、③水防法改正概要、④水害時における避難行動の留意点、⑤地震時における避難行動の留意点、等についてわかりやすく講演を受けた。



10月22日（土）

実践体験講習Ⅲ

第7講座は、徳島市東消防署で開催し、10人が参加した。防災のビデオを見た後、災害図上訓練（DIG）について消防署員から説明を受け、実際に机の上に徳島市内中心部の地図を広げ、病院の場所や大きなビル、避難場所に適している場所等をマーカーで色分けして書き込み、実際に災害が起きたときのことを想定し、対応策等について参加者でいろいろと話し合った。

DIGとは、ディザスター（災害）、イマジネーション（想像）、ゲームの頭文字を取って名付けられ「掘り起こす、探求する、理解する」という意味の英語DIGに、「防災意識を掘り起こす、地域を探求する、災害を理解する」という意味を重ねたもの。

12月3日（土）

第8講座・修了式は、とくしま県民活動プラザで開催し、15人が参加した。第8講座は、四国大学短期大学・日開野助教授から「災害とボランティア活動」—阪神淡路大震災ボランティア支援から学んだもの—と題して講演を受けた。日開野助教授は、阪神淡路大震災時に実際現地でボランティア活動を行ったことや家屋の解体・がれき撤去・屋根のブルーシート張り・救援物資の仕分け等、また災害支援で役立ったものとして「革手袋」が特に役立った事など、実際の経験・体験を基にプロジェクターを使ってわかりやすく話され、「防災と人命と町を護る、ボランティア活動



へ」するため、日頃からの助け合いの日常化を訴えられた。

修了式では、藤原会長から修了証書（8講座中5講座以上出席）が手渡され、第5期の養成講座についての反省点や良かった点、第6期に向けた意見交換を行った。



第5期ボランティア・サポートチーム養成講座に参加して

私が参加して良かったのは、東消防署で行われた救命救助の実践体験でした。

ロープを使って溺れている人を救助する方法で、「もやい結び」というロープの結び方があり、自分の不器用さも加わってなかなか上手くできませんでしたが、何度も繰り返すことによって結ぶことができるようになりました。また、救急車が到着するまでの人工呼吸・心肺蘇生は、素早い行動、的確な判断が要求され、応急処置が人命を救ったり、または後遺障害を防ぐということを学びました。さらに、竹や毛布を使って、担架を作ったりするのは非常に参考になりました。

日常生活でいつ何が起こるかわかりません。継続的な訓練をやっていかないと、人命救助はできないということを痛感しました。今回は、十分な参加はできませんでしたが、来年度もぜひ参加させていただいて、ボランティアに行けるような力をつけていきたいと思います。

最後にこの講座を企画、教育訓練をしていただいた関係者の方々に感謝申し上げます。

（中野 修次）

有事はいついかなる場合に発生するかわからないため、それに備えるための研修及び訓練等を日頃から受けたいと思っておりましたが、本講座の募集を知り、今回受講させていただきました。

講座内容は災害ボランティアの心得から始まり、過去の様々な災害から得た教訓等の講演、一般救急救命講習（心肺蘇生法等）実践体験講習（応急手当法、ロープワーク、図上訓練等）災害想定体験（地震、風雨、消火、煙等）と多岐にわたっており、大変有意義なものとなりました。

本研修で学んだ知識、技術は地震、台風等の自然災害時のみならず、日常生活上で起きる事故等に出くわした時、実際に使えるものであり、是非多くの方に受講していただきたいと参加して実感いたしました。

今後は、自身のスキルアップのためにも次回（第6回）も参加させていただきたいと思っております。

近い将来、必ず起こると言われる南海大地震ですが、県内の各地域で多くの自主防災組織等が立ち上がり、地域住民が心を通わせ、お互い助け合いながら、それに対処すれば被害は最小限度に食い止めることが出来ると思います。

また、「災害への備え」を通して地域が一つになり、住民のコミュニケーションが図られれば、今以上にぬくもりのある、ここに住んでいて良かったと思える素晴らしい徳島県になるのではないかと思います。

最後に本講座を企画、運営していただきました連合徳島スタッフの皆様方に感謝申し上げます。今回の感想とさせていただきます。

（山下 健一）

近年、世界の各地で大規模な地震や風水害が発生し、甚大な被害に見舞われた状況が報道されています。我が国も、決して例外でなく近い将来、かなり高い確率で地震が起こる可能性が指摘され、「災害時の対応について何らかの準備をしておかなければ」という危機感を持っていました。こうした状況の中、「ボランティア・サポート養成講座」を受講できる機会を得たことは、私にとって幸運でした。

研修カリキュラムは、理論的な講習をはじめ地震や強風の実地体験、さらには救命救急など多岐にわたり、どの講義も大変有意義なものでした。とりわけ印象に残ったのは、心肺蘇生法・人工呼吸の訓練で、やるべき順番が頭の中で混乱し、一刻を争う事なのにスムーズにできず、その困難さを痛感させられました。

災害時における行政システムや設備を整えることは重要ですが、最終的に必要なのは人の手です。どれだけ冷静に対処できるか、不安はありますが今回の研修で得たことを少しでも発揮できればと思っています。

最後に、この研修を運営いただきました連合徳島の皆様をはじめ関係者の方々にお礼を申し上げます。

（藤本 恭士）

第5期連合徳島ボランティアサポートチームの記録
〒770-0942

徳島市昭和町3丁目35-1 徳島県労働福祉会館内

日本労働組合総連合会徳島連合会

t e l 088-655-4105

f a x 088-655-4113

E-mail info@tokushima.jtuc-rengo.jp

